

岐阜・山県市

選挙公営制で詐欺か

ポスター費 水増し受給 県警市議らを聴取

二〇〇四年四月に実施された岐阜県山県市議選で、複数の候補者が市の選挙公営制度で支出されたポスター製作費を水増しして受給した疑いが強まり、県警捜査二課と山県市は八日、詐欺の疑いで、現職市議ら五人前後

二〇〇四年四月の山県市議選では、市選挙公営条例に基づき、候補者のポスター製作費や選挙カーの経費などを市が公費負担した。このうち、ポスター製作費は、市内百三十五カ所の掲示場に張る分とし

も、数万円から十数万円ずつ多く請求し、水増しした分は選挙用のはがきやパンフレットの印刷代などに充てた疑いが持たれている。選挙公営制度は一九九三年から県議選や市議選、知事選、市長選で認められるようになり、全国のほとんどの県、市が条例を定めて導入している。山県市は〇三年に町村合併で誕生した際に選挙公営制度を導入。〇四年四月の市議選では候補者二十七人のうち二十五人が請求し、計一千二十万円が公費から支出された。候補者が公費負担の上限に近い金額を請求する例は全国的にも多く、請求内容の不透明さが問題になっている。山県市議会は全国に先駆けて今年三月、議員提案で選挙公営条例の廃止案を可決した。村橋安治山県市議長の話 議会としては公営制度を廃止したばかり。(疑惑は) 個々の議員の問題で、議会全体の話ではない。事実だとしたら残念だ。

について任意で聴取を始めた。県警は立件に向けて詰めの捜査をしている。―関連面

て、一人当たり三十七万八千四百五十五円を上限に、各候補者側からの請求に従って支給された。調べでは、五人前後の現職市議らは、それぞれ印刷業者と共謀するなどして、実際にポスター製作にかかった費用より

も、数万円から十数万円ずつ多く請求し、水増しした分は選挙用のはがきやパンフレットの印刷代などに充てた疑いが持たれている。選挙公営制度は一九九三年から県議選や市議選、知事選、市長選で認められるようになり、全国のほとんどの県、市が条例を定めて導入している。山県市は〇三年に町村合併で誕生した際に選挙公営制度を導入。〇四年四月の市議選では候補者二十七人のうち二十五人が請求し、計一千二十万円が公費から支出された。候補者が公費負担の上限に近い金額を請求する例は全国的にも多く、請求内容の不透明さが問題になっている。山県市議会

は今年三月、議員提案で選挙公営条例の廃止案を可決した。

村橋安治山県市議長の話 議会としては公営制度を廃止したばかり。(疑惑は) 個々の議員の問題で、議会全体の話ではない。事実だとしたら残念だ。

山県市議ら数人聴取

04年市議選 ポスター代 市に水増し請求

県警、詐欺容疑で

二〇〇四(平成十六)年四月に行われた山県市議選で、市議らが印刷業者と共謀し、選挙公営で補助されるポスター代を水増し請求し、市から公費を不正に受け取ったとして、県警は八日、詐欺容疑で市議ら数人の事情聴取を開始した。裏付けを進め、容疑が固まり次第、市議ら数人を書類送検する見込み。

調べでは、市議ら数人業者と共謀し、〇四年四 月に行われた市議選で、
はそれぞれ自分の選挙ポスターの印刷を発注した。市にポスター代を水増しした疑いが持たれている。

すると公費で賄われていた。市議ら数人は実費を水増しし、限度額(三十七万七千円)に近い金額を請求。差額分を別の印刷物の代金に充てていたとみられる。

山県市が誕生してから初の市議選で、二十七人が立候補。うち二十五人が選挙公営で市にポスター代を請求。多くは限度額の半分程度だったが、数人は突出していた。市議の一人は八日、岐阜新聞社の取材に「話すことは何もない」と話した。

同市議会は今年三月、市長選や市議選で候補者のポスター代や、選挙用自動車の経費などを公費で賄う「選挙公営」の条例を廃止している。

ポスター代は当時、所定の用紙に金額や枚数などを記入し、同市に提出は、「平成の大合併」で

山県市の選挙公営制

ポスター費大きな差

最大差額「良心、倫理の問題」 25万円

請求内容が不透明だと指摘されていた選挙公営制度に、初めて捜査当局のメスが入った。問題となった〇四年四月の岐阜県山県市議選では、ポスター製作費について、上限ぎりぎりに請求する候補者がいる一方で、三分の一程度で済んでいる候補者もいた。水増し請求疑惑に、関係者からは「候補者の良心、倫理の問題だ」と憤りの声が上がった。

〇四年四月の山県市議選は、町村合併で市が誕生して初めての市議選。定数二二に二十七人が立候補する激戦だった。候補にとっては初めて

〇四年四月の山県市議選となる公営制度による選挙。中目新聞が入手した資料によると、公営制度を利用した候補者は二十五人で、ポスター製作費については三十万円台が六人、二十万円台は三

各候補のポスター製作費

順位	ポスター製作費(円)	上限額比(%)
1	369,900	99.7
1	369,900	99.7
3	368,550	99.4
3	368,550	99.4
3	368,550	99.4
6	352,215	95.0
7	297,675	80.3
8	228,900	61.7
9	223,965	60.4
10	198,450	53.5
11	184,950	49.9
12	163,080	44.0
12	163,080	44.0
12	163,080	44.0
16	163,012	44.0
17	159,300	43.0
18	155,925	42.0
18	155,925	42.0
18	155,925	42.0
18	155,925	42.0
18	155,925	42.0
18	155,925	42.0
24	149,580	40.3
25	121,905	32.9
26	0	0.0

【注】一人は法定得票数に達せず対象外

十六万九千九百円が二人、三万六千八百五十五円が三人と同額請求が目立ち、不自然さがみられる。一方、請求額の最も低い候補者は十二万九千五百円、最も高い候補者との差額は二十四万七千九百九十五円。ポスター製作の名目は同じなのに、大きな開きが出た。

関係者によると、県警が聴取をした現職市議員は、ポスター製作費の中

業者に依頼していたといふ。上限に近い請求をした候補から注文を受けた印刷業者は「紙はごく普通話した。通で、印刷も特殊なものではない。この単価が普通だとは言うわん」と話した。

書類整えば点検に限り

先進地、動揺隠せず

今春、全国に先駆けて議員提案で選挙公営制度を廃止した岐阜県山県市。その制度をめぐる公金詐欺疑惑が発覚し、市議会の関係者は動揺を隠せないでいる。「ただただ驚いてい」と話すのは平野元(はじめ)市長。制度について「正しく請求する

請求をした市議の一人は、水増し請求疑惑について「全然分かりません。(身に覚えは)ない」と否定。一方、限度額の約三分の一でポスター製作を済ませた市議員は「せっかくなので公営制度を廃止したって、こんな事態だったのでは何ともならない」。別の市議員も「岐阜県庁の裏金と同じで『見つからないから、いいだろう』という気持ちがあったのではないか。水増し請求するような人間が議員をやっているのか」と憤った。